

円座「道頓堀の社会＝空間構造と芝居」

Roundtable: 'Dotonbori Society— Spatial Structure and the Theatrical Performance'

2015 年 3 月 8 日（日）、大阪市立大学経済学部棟において円座「道頓堀の社会＝空間構造と芝居」が開催された（近世大坂研究会・都市文化研究センター [UCRC]・都市研究プラザ [URP] 都市論ユニット共催）。大阪市立大学重点研究 (B) 「17 世紀・大坂の都市民衆の生活世界の再構成—法と社会の視点から—」（2014～15 年度・研究代表塚田孝 [文学研究科教授]）では、都市大坂における民衆世界の形成過程の解明を課題としているが、今回は、2012 年に新たに見出された安井九兵衛関係史料（遠藤亮平氏・安井洋一氏所蔵、大阪歴史博物館寄託）を用いた道頓堀の社会＝空間構造に迫る取り組みの中間総括として企画された。

まず八木滋氏（大阪歴史博物館学芸員）が「17 世紀道頓堀の都市開発と空間—西道頓堀南側を中心に—」について報告した。慶長 17 年の道頓堀の開削に伴い、兩岸の土地は安井・平野ら有力町人が公儀の許可を得て町屋に開発・分譲するが、西道頓堀南端は幕府の御用材木場として保持されたことが明らかにされた。道頓堀の開削とそれに伴う開発をみるなかで、地域ごとに異なる過程を辿ること、その背景には、幕府や有力町人の開発意図と権利関係が交錯していたことなどが明らかにされ、17 世紀大坂における開発の展開過程の解明が飛躍的に進んだことが確認された。

また、木上由梨佳氏（大阪市立大学大学院前期博士課程）は「近世大坂芝居地の社会構造—町と芸能興行—」について報告した。道頓堀周辺に位置する芝居地（立慶町と吉左衛門町）を対象に、17 世紀から 19 世紀までの長い視野のなかで、芸能興行をとりまく社会構造の解明を試み、17 世紀に家屋敷の統合と芝居小屋の拡大傾向があること、道頓堀の浜地では、当初見世物などの小芝居が展開するが、のちに水茶屋が設置され、芝居地特有の社会＝空間が形成されること、また町年寄と芸能興行面での有力者が重なること、などが明らかにされた。

これらの報告を受けて、神田由築氏（お茶の水女子大学准教授）からのコメントがあり、18～19 世紀には島之内居住の役者が増加するなど「芸能の町が拡大する」傾向の中で芝居地を位置づけることの重要性と、人形浄瑠璃の隆盛・停滞と歌舞伎の発展などの興行内容の変化などを視野に入れる必要性が提起された。このコメントを受けて、木上氏は別途の検討を踏まえて、新地芝居・宮地芝居も含め、都市大坂に展開した芸能興行をめぐる社会関係の全体像を紹介し、活発な議論が交わされた。本円座の成果は、重点研究成果報告書『道頓堀の社会＝空間構造と芝居』に組み込まれているので、参照いただきたい（4 頁参照）。

■島崎未央(URP 特別研究員(若手・先端都市))

In Osaka City University's Research Concentration (B), 'Reformation of the Living World of Osaka's Townspeople in the 17th Century— from the perspective of the law and society,' (led by Prof. Tsukada Takashi), research has been pursued that illuminates the formative process of the commoners' world in the city of Osaka. As part of that, a roundtable was planned as an interim summation of research efforts focusing on the spatial structure of Dotonbori society utilizing the historical materials related to Yasui Kuhei that came newly to light in 2012, and it was held on March 8, 2015, produced by the Early Modern Osaka Research Association, Osaka City University's Urban Culture Research Center (UCRC), and the Urban Research Plaza's Urban Theory Unit.

To begin with, Mr. Yagi Shigeru gave a report titled '17th Century Dotonbori's Urban Development and Space—focusing on the south side of West Dotonbori,' and it confirmed that understanding of the evolutionary process of Osaka's 17th century development is rapidly advancing. Also, Ms. Kinoue Yurika gave a report titled 'The Social Structure of Early Modern Osaka's Theater District—the town and the entertainment business,' and looking at the theater district that formed the neighborhood around Dotonbori from a long perspective stretching from the 17th to the 19th centuries, she clarified the social structure that was bound up with the entertainment industry. Comments were received from Ms. Kanda Yutsuki, and an active discussion was held.

These results were compiled into the Research Concentration Report 'Dotonbori Society— Spatial Structure and the Theatrical Performance'.



大阪市立大学都市プラザ先端都市研究拠点・第2回URP特別研究員(若手・先端都市)研究発表会(合評会)
兼 大阪マニラ都市研究フォーラム

Osaka City University's Urban Research Plaza (Platform for Leading-Edge Urban Studies)
2nd Annual Evaluation Conference for Young Special Researchers of the Urban Research Plaza
and the Osaka-Manila Urban Research Forum

2015年3月18日(水)・19日(木)、第2回URP特別研究員(若手・先端都市)研究発表会(合評会)兼大阪マニラ都市研究フォーラムがURP西成プラザで開催され、14名のURP特別研究員が発表を行った。合評会は、グローバルCOE事業終了後もグローバルな学術拠点として活発な活動を展開しているURPのグローバルCOE継続事業として、毎年9月と3月の2回開催しているものである。

当日は阿部昌樹(URP所長)の開催挨拶で始まり、特別研究員が順に研究進捗状況や研究発表などを行った。

まず筆者(兪)は、近年高齢化が進んでいる日本と中国において顕著な社会問題となっている一人暮らし高齢者および高齢者夫婦のみ世帯の居住現状に関する文献をまとめ、今後の研究計画について報告した。湯山篤は日・米・英のケアの質の評価指標を分析対象にし、その構造・過程・結果の側面から共通点や相違点について考察を行い、ケアの質確保のアプローチの実際の岐路および可能性を探った。

引き続き、日本の近世歴史研究について、島崎未央は、これまで統制政策レベルで論じられてきた油の流通研究について、地域における取引の自生的展開を踏まえて捉え直す試みとして、泉州池田谷に焦点を当てた研究の報告を行った。山下聡一は塩流通について、大坂の塩問屋における売り場空間と取引構造を空間構造分析と連動させながら大坂の地域社会構造を把握することなどに関する報告を行った。齊藤紘子は和泉国泉郡の池上村を中心とする大和小泉藩領・伯太藩領の村々に焦点をあてて、困窮人救済の実態について報告した。三田智子は、被差別地域とその周辺地域との関係性への「差別⇔被差別」という一元的理解を見直すために、泉州南王子村が周辺村々と取り結ぶ具体的な関係を整理し諸関係の重なり合いについて報告した。

ヨハネス・キーナーは、大阪市西成区の北西部、北区の中崎町、住之江区の北加賀屋と此花区の花見川に目し、inner cityの再生に関する研究報告を行った。山田信博は空き住戸となっている公営住宅の福祉活用の可能性について考察を行った。西岡英子は、ジェンダーの視点から防災学習と東日本大震災に関する研究報告を行った。林徳栄は1980年代に発生した「兄弟福祉院事件」を中心に、韓国の「浮浪人」政策が持つ歴史・社会的位置づけとその意味について報告した。孫ミギョンは、商業空間としてのコリアンタウンが持つアイデンティティおよび市場としてこの空間がいかに構築されてきたのかという観点から商業を営む在日コリアンや日本人、ニューカマーなど人々の生活の場、職場としてのコリアンタウンの側面について研究報告を行った。森崎美穂子は、

伝統的な食文化を構築する地域の農業製品に着眼した日仏の比較研究に関する中間報告を行った。翌19日の発表では、鄭榮鎮が大阪府下の他自治体の「国際化」などの指針を類型化した上で、八尾市の国際化施策の指針と他自治体との比較検討に関する報告を行った。最後に、安田恵美は社会復帰・更生の可能性という福祉的視点から被疑者に対する支援に関する研究報告を行った。各発表について多様な視点からの質問やコメントがあり、活発な議論が展開された。

ユ シュウケン
■ 兪 秀 娟 (URP 特別研究員(若手・先端都市))



On March 18 (Wed) and 19 (Thu) 2015, the 2nd Annual URP Special (Young-Leading-Edge Urban) Researchers Presentations (and overall evaluations) and the Osaka-Manila Urban Research Forum was held at the URP's Nishinari Plaza. In its development of activities as a global academic base, the Urban Research Plaza holds these overall evaluations twice every year in March and September.

This occasion began with opening remarks by the URP Director Abe Masaki, and research papers were presented by 14 of the URP's Special Researchers. Over the two days, the Special Researchers each reported on the progress and results of their own research, and there were questions from the participants about each of the presentations from a wide variety of viewpoints which developed into lively discussions.

19日は2人の研究発表の後にスペシャルセッションとして、国連関連のカンファレンスに出席するためフィリピンより来日していた Josephine Castillo 氏を大阪に招き、フィリピンにおけるコミュニティの再生、コミュニティ自体のエンパワメントを高める諸実践等についての報告が通訳を介して行われた。氏は“DAMPA FEDERATION”に所属したコミュニティオーガナイザーであり、“DAMPA”は「家」を意味し、スモーカーマウンテン解体による都市貧困層のコミュニティ崩壊が契機となってはじめられた組織である。ルソン島を中心として始まった活動はフィリピン他都市へと拡大し、現在は235の地域組織により構成されているなどの報告があり、コミュニティ再生のみならず、アドボカシーや他団体とのパートナーシップの構築など、包摂型コミュニティの創造に向けたきわめて示唆に富むものであった。特に、これらの地域実践を社会運動化していくことにより、政策的な国の変化を重要視しているとの報告は、日本における社会運動にとっても参考になるものであったと思われる。

ついで、大阪市西成区に拠点を置く社会的企業である「株式会社ナイス」の田岡秀朋氏から、西成区における居住貧困や就労支援等のナイスの実践報告が行われた。報告後は、Josephine Castillo 氏を含む参加者全員で西成区内のフィールドワークを行い、就労支援、居住支援等のナイスの実践に直接触れる機会を得た。これらの実践は、公的機関に社会問題の解決を促すのみでなく、民の立場からもそれらの解決をめざしたものと言える。机上での議論のみでなく、実際に現場に出向き理解を深めることにより、研究と実践の架橋の重要性と、これらをかかんに図っていく必要があるかを、改めて考える機会になった合評会・フォーラムであった。

■ ^{チョン ヨン チン}鄭 榮 鎮(URP 特別研究員(若手・先端都市))

On the second day, there were two presentations by Special Researchers. After that, there was a report by Ms. Josephine Castillo from the Philippines who had come to Japan for a UN-related conference. Invited to Osaka, she presented a report on practical implementation that was full of suggestions on community renewal in the Philippines by the DAMPA Federation, on fomenting empowerment of the residents, etc. Next there was a report from the 'Nice' Corporation, which is based in Osaka's Nishinari Ward, on Nice's work in housing assistance and employment assistance. After that, all the participants made an inspection tour of the sites of Nice's housing and employment assistance in Nishinari Ward, and it became an opportunity to think about the role of private citizens and not just public institutions in solving social problems and the importance of bridges between research and practical implementation.

▼3月18日(水)

開催挨拶(13:00~13:10)

阿部昌樹(都市研究プラザ(URP)所長)

Session1~3(13:10~19:20) URP 特別研究員研究発表

愈秀娟

「日本・中国における独居高齢者・高齢者夫婦のみ世帯の生活支援に関する研究(中間報告)」

湯山篤

「ケアの質の測定指標の構成要素の変化に関する一考察」

島崎未央

「近世中後期、油の流通構造にみる『法と社会』」

山下聡一

「近世の塩流通の都市大阪」

齊藤紘子

「近世泉州の村落社会と飢人救済」

三田智子

「日本近世におけるかわた村と地域社会」

西岡英子

「ジェンダーの視点に立った防災学習と東日本大震災」

ヨハネス・キナー

「Reinventing the Inner City: Urban Land, Entrepreneurship and Everyday Practice in Osaka City」

山田信博

「公営住宅の譲渡に関する研究~大規模な福祉活用の可能性について」

林徳栄

「1980年代における韓国の浮浪人政策~『姉妹福祉院事件』を中心に」

孫ミギョン

「大阪生野コリアタウンに生きる人びと~インタビュー調査から見えてくるもの(中間報告)」

森崎美穂子

「伝統的な食文化を構築する地域の農業製品に着眼した日仏の比較研究(中間発表)」

※18日の司会は全泓奎(URP教授)、川井田祥子(URP特任講師)、櫻田和也(URP特任講師)、上村修三(拠点コーディネーター)が、タイムキーパーは堀裕典(URP特任講師)、高岡伸一(URP特任講師)、コルナトウスキ・ヒェラルド(拠点コーディネーター)が交替して務めた。

▼3月19日(木)

Session4(13:00~13:50) URP 特別研究員研究発表

鄭榮鎮

「八尾市における外国人、多文化共生施策~大阪府下自治体との比較から」

安田恵美

「福祉的ニーズを持つ被疑者への起訴猶予」

※司会: 愈秀娟、鄭榮鎮

Special Session(14:00~15:30)

大阪マニラ都市研究フォーラム

現地視察(15:30~17:30)

西成フィールドワーク

■URP 先端的都市研究ブックレットシリーズ刊行

都市研究プラザは 2014 年に「共同利用・共同研究拠点」としての認定を受け、共同利用・共同研究拠点形成事業（「先端的都市研究拠点」）がスタートした。本事業では、これまでプラザが蓄積してきた研究や学術資源を、地域や一般社会、連携研究機関とさらに共有・協力していくプロセスを重視し、各連携研究機関が積み上げてきた都市研究における先端的取り組みをスケールアップしていくための連携型拠点として整備を図っている。このたび、その成果の一部として、先端的都市研究ブックレットシリーズを計 5 冊刊行した。



※関心のある方は下記までご連絡ください。ただし部数に限りがありますので、ご希望に添えない場合があることをご了承ください。

連絡先：先端的都市研究拠点事務局

joint_office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp

■箱田 徹（URP 特任助教）

The Urban Research Plaza was officially recognized as a 'Base for Joint Utilization and Joint Research' in 2014, taking on the title of 'Base for Leading-Edge Urban Research' and is involved in the latest cutting-edge urban research, making use of nation-wide personal and organizational networks. As part of the fruits of that research, in March 2015 the URP published 5 volumes including *The Front Line of Osaka City University's Urban Research— An Experiment in Courses Coordinated with Local Implementation*.

■近世都市大坂に関する 2 冊の成果報告書刊行

大阪市立大学重点研究（B）「17 世紀・大坂の都市民衆の生活世界の再構成—法と社会の視点から—」プロジェクトの成果として、2 冊の報告書がまとめられた。一冊は 3 月 8 日の円座「道頓堀の社会＝空間構造と芝居」の内容と連動したものであり（1 頁参照）、「道頓堀大絵図」の写真版も収録している。もう一冊は、『「大坂御法度書巻」「大坂諸公事覚書」「諸事被仰渡判形帳」—近世大坂町触関係史料 5』である。

後者に収録した「大坂御法度書巻」は、慶安元～明暦元（1648～55）年の重要法令を書き留めた史料である。「大坂諸公事覚書」は、寛文 2～4（1662～4）年頃に大坂城玉造口定番渡辺家で作成された史料である。「諸事被仰渡判形帳」は、享保 19・20（1734・35）年に御池通五丁目で作成された町触の留書である。いずれも 17 世紀中期～18 世紀初頭の都市大坂に関する非常に貴重な史料である。これら史料の翻刻と解題と、18 世紀初頭に行われた堀江新地開発についての関連論考を収録している。 ■山下聡一（元 URP 特別研究員）



As a result of Osaka City University's Research Concentration (B), 'Reformation of the Living World of Osaka's Townspeople in the 17th Century— from the perspective of the law and society' project, 2 volumes of research reports have been compiled. One volume titled *Dotonbori's Society— Spatial Structure and the Theater* brings together essays related to Dotonbori's urban development and the theater district. The other volume is *Historical Materials Related to Laws and Regulations for Townspeople in Early Modern Osaka 5: Osaka gohatto-maki, Osaka shokuji oboegaki, and Shoji oewatasare hangyo-cho*. This is a result of the ongoing activities of the Association for Reading *Osaka machi-bure* (laws for townsfolk).

■国際シンポジウム in ソウル

会 期：2015 年 5 月 14 日（木）～5 月 16 日（土）
 テーマ：共に生きる社会～貧困層の居住問題解決に向けて
 場 所：ソウル市内
 主 管：ソウル研究院、SH 公社、都市研究プラザ
 主 催：ソウル特別市

■URP 先端都市特別研究員（若手）公募

募集要項（平成 27 年 8 月募集分）は 2015 年 7 月に公表を予定しています。

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/about/recruit.html>

■URP-Newsletter 次号は 2015 年 8 月に発行予定です。

大阪市立大学都市研究プラザ ニュースレター 第 27 号

編集長（発行責任者）阿部昌樹

副編集長 水内俊雄 岡野浩 全泓奎

編集主幹 川井田祥子 野村侑香

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/staff/>

URP

Osaka City University
 大阪市立大学

Urban Research Plaza
 都市研究プラザ

「都市研究プラザ」は、都市再生へのチャレンジとして大阪市立大学が 2006 年 4 月に設立した全く新しいタイプの研究教育組織です。「プラザ」という名前が示すように、都市をテーマとする人々が出会い、集まる広場をめざしています。先端的都市研究拠点として、現場や海外での研究・まちづくり活動、さらに、世界第一線級の研究者や政策家と国際的なネットワークを構築しています。

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/>

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138 tel.06-6605-2071

e-mail : office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp

所長 阿部昌樹 副所長 水内俊雄 加幡真一

ユニット長 1U 阿部昌樹 2U 嘉名光市 3U 水内俊雄 4U 岡野浩